

青森県で24年ぶりに開催!!

5月25、26日に伊藤鉱業アリーナつがるにおいて、「第37回マルちゃん杯東北少年柔道教室、柔道大会」(東北柔道連盟・東洋水産株式会社主催)が開催され、東北各地から多くの人が集まりました。

柔道教室

大会前日、ベイカー茉秋選手(リオデジャネイロオリンピック90kg級金メダリスト)を講師に迎え、東北各地から約300人の少年少女が参加し、トップアスリートの指導を受ける貴重な体験となりました。

教室では、ベイカー選手の得意技である大内刈を披露。また、オリンピック決勝の場面などを再現してみせると、選手たちは目を輝かせながら見入っていました。実技形式の練習に入ると、技を出すときのポイントなどを丁寧にアドバイスしていました。

また、じゃんけん大会では、ベイカー選手のサイン色紙やサイン入りTシャツなどがプレゼントされ、選手たちからは大きな笑顔が溢れました。

最後に、ベイカー選手は「今日教えていろんな技を試合で試したり、日々の練習で磨いてください」と激励しました。



ベイカー選手から技のポイントを教わる選手たち



得意技を披露するベイカー選手

柔道大会



熱戦を繰り広げる選手たち



チーム一丸で仲間を鼓舞



豊嶋会長(右)に選手宣誓をする佐藤選手

大会当日の開会式では、大会副会長で青森県柔道連盟の豊嶋弘文会長が「この大会が青森県で開催されるのは青森県武道館以来24年ぶりで非常に感慨深いものであります。皆さんのなかからオリンピック選手が生まれることを期待しています」とあいさつ。

選手宣誓では、車力柔道少年団の佐藤慧珠さんが「最後まで、正々堂々戦い抜くことを誓います!」と力強く宣誓しました。

大会では、選手約800人が参加し、特に注目を集めた中学生男子の部決勝では、激しい攻防が繰り広げられ、最後の瞬間まで勝負の行方が分からない白熱した試合展開に、会場全体が熱気に包まれていました。

生徒たちが活躍を報告

5/29
市役所



石澤選手（左から2人目）と坂本選手

4月20、21、27日に開催された「第30回東奥日報社杯争奪リトルシニア野球県大会兼第34回県支部大会」に出場した藤崎桜城リトルシニアが創部14年目で見事初優勝。この日、優勝メンバーでチームの主力である坂本球太選手（柏中3年）と石澤瞳真選手（車力中3年）の2人が市役所を訪れ、大会の結果や今後の抱負について話しました。

坂本選手は「チームの雰囲気がよく楽しく試合をすることができた。初優勝ができて嬉しい」、石澤選手は「自分たちの代で全国大会に出場できるように、気合を入れて頑張りたい」とそれぞれ話しました。

倉光市長は、「これから野球人生はまだまだ続くと思うので、目の前の勝利も大事ですが怪我をして無理はしないように。皆さんの活躍を応援しています」と激励しました。

5月26、27日に開催された「第31回青森県中学校春季バレーボール選手権大会」において、男子の部では木造中学校が初優勝、女子の部では車力中学校が38年ぶり2回目の優勝と、つがる市の中学校がアベック優勝を飾りました。この日、両校の優勝メンバーが市役所を訪れ、大会の結果や今後の抱負について話しました。

木造中3年の江良楓真主将は「けが人や負傷者がでたが、チームみんなで支えあい優勝することができました。夏の県大会でも優勝し、東北大会に出場します」、車力中3年の平山優亜主将は「試合ではミスも少なく、みんなで声を掛け合いながら優勝することができました。夏の県大会では、一人ひとりが自分の武器を発揮して優勝します」と両主将がそれぞれ意気込みを語りました。

倉光市長は、「つがる市民として誇りに思います。よくぞ優勝してくれました。おめでとう、そしてありがとう。夏の大会では、次の景色が見れるように頑張ってきてください」と激励しました。



大会終了後アベック優勝記念に一枚
写真提供：車力中学校バレーボール部父母会

6/13
市役所



木造中学校男子バレーボール部の優勝メンバー



躍動する木造中の選手たち
写真提供：木造中学校バレーボール部父母会



車力中学校女子バレーボール部の優勝メンバー



躍動する車力中の選手たち
写真提供：車力中学校バレーボール部父母会